

V きょうど はってん 郷土の発展につくした人々

(1) すず き さかえ 鈴木 栄

ぶんえいがん
文永元年(1863年)～10年(1935

年)

あつしお か のうむらにちちゅう きもいりすが いちゅうへい
熱塩加納村日中の肝煎菅井忠平
のじなん
の二男として生まれました。小さい

ころからあかばねしょうさぶろう
赤羽庄三郎という人についてかんがく べんきょう
漢学を勉強しました。父の菅
井忠平は、当時熱塩加納村のこちよう
戸長をつとめていました。兄のちよきち
千代吉が
じゅうみんけんうんどう かんけい
自由民権運動に関係していたため、そのえいきょうをうけ、栄も青年
になると自由民権運動にさんか
参加しました。

自由民権運動とは、わが国ではじめてのみんしゆしゆぎ うんどう こっかい
民主主義の運動で、国会を
開くことを求める人々の運動です。ふくしまけん こうのひろなか
福島県では、河野広中という人が
中心になって進められました。

栄は、明治14年(1882) 18さい
才で、高郷村なついで、夏井にあるすずき
鈴木家に、むこ
ようし
養子になりました。夏井では、もんてい
門弟に漢学を教えました。また、あいづ
会津
ばんげ
坂下町からてらこや
寺子屋の先生をたのまれたりしました。

栄は、たいしやう
大正3年から大正10年まで、しんごう せんさき くみあいそんちやう
新郷村千咲村組合村長としてか
つやくしました。栄は、仕事には大変きびしい人でしたが、わか
和歌をつ
くったりすることもすきでした。

としをとってからはしんかん
神官のつとめもして、昭和10年4月、73才でな
くなりました。

